

学校目標『元気いっぱい 自分から学び 共に高め合う西与賀っ子』の育成



にしよかっ子

令和 6年 9月13日(金)

文責 校長 大石 文枝 第10号

☎ 0952-23-6300

㊦ここにあいさつする子 ㊧しっかり勉強する子 ㊨ろこんで働く子 ㊩からだをきたえる子 ㊪ながり学び合う子 ㊫ころをみがく子

■ 子供は社会を映す鏡

右記の詩は、以前、西与賀小学校に勤務していた時の校長から教えてもらったものです。(作者不詳) 確か、学校便りにも掲載されたこともあったのではないかと思います。

子どもは親の姿を見て育つと言われます。この詩は、「子どもにこうなってほしい」と願うならば、まずは我々大人が、行動で示し、手本となるべきであるということを教えてくれています。つまり、子どもが「できていない」ことを嘆いたり叱ったりするのではなく、自分は子どもの手本となり得ているのかを振り返り、できていなければ、大人が変わること、意識を変えることが大事であるということを教えてくれています。もちろんこれは、教育者として、また、親としての私自身の自己反省も含まれます。これからも子どもたちの手本となるべく、行動で示せる大人でありたいと思います。

みなさん、いかがでしょうか？

子どもは社会を映す鏡
そんな考えに立つてみると
私たち 大人から
先になければならないことが
たくさんあります
まず 大人から変わることに
そして 子どもたちを温かく見守り
支えてあげること
さあ 始めましょう
できることから 大人から

■ 33名の教育実習生、赴任

西与賀小学校は、佐賀大学教育学部の代用附属校として教育実習生を受け入れています。今年度も2学期のスタートと同時に9月2日(月)から33名の実習生が赴任しました。そこで、始業式終了後に赴任式を行いました。始業式の後に、実習生の赴任式が毎年行われていることを覚えている子供たちは、始業式が終わったとたん、どんな実習生が体育館に入場してくるのか期待に胸を膨らませてわくわくしながら待つ姿がありました。一人目が体育館に入られるやいなや、大きな拍手で迎えた子供たち。「これからいよいよ実習が始まるのだ！」という緊張感があつた実習生も子供たちの歓迎の拍手に笑顔のをのぞかせながら入場してきました。更に、6年生代表による歓迎の言葉で、緊張感がほぐれ、「教育実習生、33名も乗せた西与賀機関車、出発進行！」の最後のかけ声に明るい笑い声も沸き起こりました。実習生のノートには、赴任式の心温まる演出に、感激したことが何人も書いてあって、私もほっとしたところです。

子供たちの力は偉大です。この赴任式を行いながら、いい出会いになることを切に願わずにはられませんでした。



実習生赴任式の様子
6年生「歓迎の言葉」

■ 校長先生！これ見てください！

「校長先生！これ見てください。」3階の教室前の廊下にいた私に満面の笑みで話しかけてくる実習生がいました。何事？と思って実習生を見ると、手には、その日に実習生が授業で使って子供たちが書いたワークシート(学習プリント)が握りしめられていま

す。「すごいですよ。子供たち二人も校長先生のことを書いていますよ。」と嬉しそうに伝えてくれます。そのワークシートを見せてもらったら、何と

大石校長先生へ「いつも教室に来る時、明るい挨拶ありがとうございます」（5年男児）

校長先生へ「いつもあいさつをしてくれてありがとうございます。」（5年女児）

と書いてありました。なんとなんと、嬉しいことではありませんか。実習生が行った学級活動「ありがとう上手になろう」という授業の中で、友達に伝えたい「ありがとう」の気持ちのところに、私を書いてくれているではありませんか。きっと、実習生の授業への熱い思いが子供たちに伝わり、更に友達以外にも「ありがとう」を書くことへと思いが波及していったのでしょう。若い実習生の授業は、子供たちにとっても良い刺激となっているようです。「ありがとう」の気持ちを素直に表現できるって素敵なことです。みんながいろんな人に「ありがとう」が伝えられるそんな素敵な「西与賀っ子」になってほしいと思います。

■ 併免実習生、2週間、がんばりました

併免実習は、大学4年生が来ていて、2週間の実習です。今回は9名です。この4年生は、主免は、中学校・高校なので、3年生時に中学校や高校で自分の専門教科（例えば、国語、数学、社会など）の実習を経験しています。ただ、小学校への配属は初めてで、しかもいろいろな教科を教えなければならないので、とまどいもあるかと思いましたが、小学校主免の実習生と何の遜色もなく、しっかりとがんばっていました。みんな、中学生や高校生と実態が大きく違うことを意識して実習に臨み、授業作りや人間関係作りに力を注いでいました。また、中学校や高校実習の反省点を生かして取り組もうとする意欲も感じられました。お別れの日には涙を流す子供もいたようです。来年の4月には、もしかしたら小学校の教壇に立つ併免実習生がいるかもしれません。子供と心を通わせた、はつらつとした彼らの授業を見るにつけ、そんな期待をせずにはいられませんでした。（次号では主免実習生のことをお伝えします。）

※以下の写真は、併免実習生の授業の一コマです。



手描きの絵が子供の
心をつかんでいます



「私はこう思うよ」の話を真
剣に聴き入る子供たちです



体育の途中も実習生の
指示をよく聞いています



手を挙げて、意欲的に自
分の考えを伝えています

■ P T A 資源物回収、ご協力ありがとうございました

今年度、第2回目の資源物回収を9月3日から5日までの3日間実施しました。前回から少しずつ集まっていた分と夏祭りでボランティアの子供たちが回収してくれた分が含まれましたので、リーバーで配信しました通り、前回は上回るアルミ缶が集まりました。金額にして前回は7,000円、今回は12,000円です。たくさんの子供たちが朝からアルミ缶を抱えて登校してくれましたし、環境委員会の子供たちは集まったアルミ缶をP T Aの事業部のみなさんとまとめる作業を率先して行ってくれました。中には、何日にもに分けて持ってきてくれた子供もいました。ご協力本当にありがとうございました。P T A事業部のみなさん、朝のお忙しい時間帯にも関わらず、回収作業お疲れ様でした。ありがとうございました。



力を合わせて回収作業



フレコンバック一杯に!